

This is SUEKI

須恵器

— 古代のカタチ、無限大！
— Ancient Vessels, Timeless Forms —



2025 12.13^{sat} → 2026 3.8^{sun}



愛知県陶磁美術館
AICHI PREFECTURAL CERAMIC MUSEUM

報道用
リーフレット
第2弾

ごあいさつ

1600年ほど前の古墳時代に生まれたやきものSUEKI＝「須恵器」^{す え き}。朝鮮半島から伝来した新たな生産技術で始まった須恵器は、その後の日本における陶磁器生産の礎となりました。

須恵器は古墳時代を通して、人々の日常生活や祭祀の場へと次第に浸透していきました。また、古墳時代には古墳で行なわれた祭祀の場、飛鳥時代以降は寺院や藤原京・平城京をはじめとした宮都、古代の役所である官衙^{かんが}など、時代の流れとともに使われる場面も変化し、それに合わせて須恵器も形を変えていきました。さらに、須恵器は東アジアとの交流や日本列島の文化や美意識に合わせて発展を遂げ、多種多様な造形が生み出されました。その造形の幅広さからは、古代の社会と古代人の思考がうかがえます。

本展では、古墳時代から平安時代までの約500年間に、全国各地で作られた須恵器の名品を結集し、無限に広がる造形美を紹介します。各時代、各地域で生み出された洗練されたカタチや独特なカタチなどをご覧いただき、古代の人々の創造力に触れていただけたら幸いです。

愛知県陶磁美術館

こもちふたつきだいつきよんれんこ

① 《子持蓋付台付四連壺》 重要文化財 ※表紙作品

豊田市豊田大塚古墳出土 猿投窯 古墳時代（6世紀）豊田市博物館蔵

四つの壺を結合。四つの小壺付きの蓋を被せる。

古墳時代のまつりの場を演出したハレの器。

そもそも須恵器とは何か？

いつ生まれたのか？

須恵器は古墳時代生まれのやきもの。
全国各地に大形の古墳が作られた古墳時代の中頃、4世紀末～5世紀初頭に出現しました。

何がすごかったのか？

縄文土器・弥生土器・土師器はじきと続いてきた日本古来の土器とは全く異なる新たな技術体系で作られたやきものので、その後の日本の陶磁器の源流になりました。

土師器までの日本のやきものが野焼きで焼かれるのに対し、須恵器は日本で初めて本格的な窯が用いられ、1,100℃以上の高温で焼かれた、硬く水漏れしにくいやきものです。

SUEKI 須恵器 すえき

何を変えたのか？

水が漏れにくいという特性から、日常生活に不可欠な水の貯蔵や、酒等の醸造を行うことも初めて可能になり、日本の暮らしや社会を大きく変貌させました。

いつまで作られたのか？

須恵器は古墳時代に生まれて以降、平安時代の10世紀ごろまで
日本各地で作られ、地域によっては室町時代の15世紀頃まで
須恵器の系譜を引くやきものが作られ続けました。

土師器

須恵器



はじき つぼ

(左) ① 《土師器壺》

関東地方出土

古墳時代前期（4世紀）

愛知県陶磁美術館蔵

ゆうがいたんけいこ

(右) ② 《有蓋短頸壺》

岐阜県出土

愛知県猿投窯産

古墳時代中期（5世紀）

名古屋市博物館蔵



SUEKI展 みどころ

その一

古代史を愉しみつくすための
パスポート「須恵器」の世界
へようこそ！

須恵器で古代へタイムトリッ
プ！器から古代の社会や人々
が見えてくる！

その二

見せます！愛陶のホンキ。
やきものの殿堂「愛陶」
が送る、史上最大規模の
須恵器展！

その三

重要文化財や各地の指定
文化財を含む名品が、
全国各地から続々登場！

その四

今に続く陶磁器生産の礎と
なった須恵器の技術。
洗練された造形美、あくな
き造形への探求、ほんと安
らぐゆるい造形まで！

その五

イベントも多彩！
あの手この手で
須恵器を楽しみつくす！

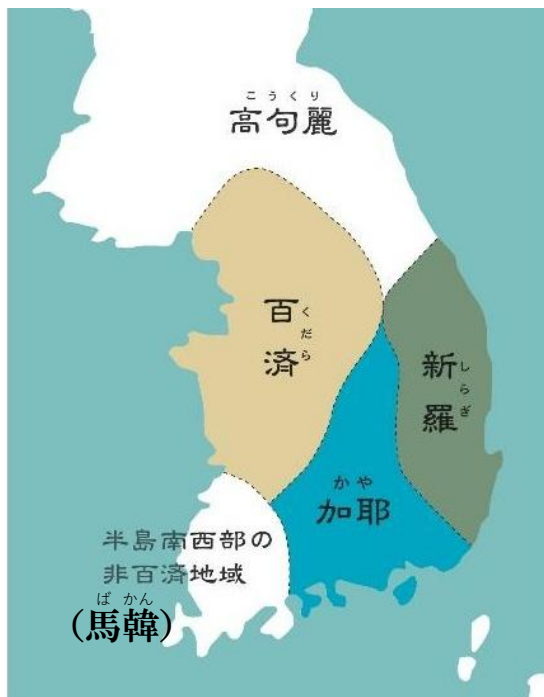
Episode 1 海を渡った技術と文化

須恵器の生産技術は、4世紀末～5世紀初頭に日本列島にもたらされました。この頃の日本列島は古墳時代で、^{もず}百舌鳥・古市古墳群をはじめ、日本列島各地で豊富な副葬品を有する古墳が造られていました。古代中国の歴史書や日韓両国の発掘調査の成果から、当時日本列島と朝鮮半島では人とモノの交流が盛んだったことがわかっています。

この時期、朝鮮半島は^{こうくり}高句麗、^{くだら}百済、^{しらぎ}新羅の三つの国に加え、^{ばかん}馬韓や小国家群からなる^{かや}加耶なども存在していました。これらの国々では窯を用いて、およそ1100℃の高い温度で焼かれた、硬く吸水性が少ないやきもの「^{とうしつどき}陶質土器」が作られていました。それらの生産技術は日本に伝わり、日本列島産の陶質土器＝「須恵器」が生まれました。

須恵器の生産が始まった古墳時代中頃の須恵器は、その様子を伝えるように陶質土器とよく似たものが作られています。ここでは、その朝鮮半島と日本の陶質土器と須恵器を展示して、須恵器の幕開けを紹介します。

③《陶質土器 車輪形容器》 韓国・加耶
三国時代（5世紀） 個人蔵
須恵器のルーツ、車輪を付けた異形の器



4世紀末から5世紀頃の朝鮮半島

当時の日本列島の人々は、朝鮮半島南部の国々・地域と交流が盛んでした。日本国内の遺跡では、渡来人がもたらした陶質土器も出土しています。



朝鮮半島・陶質土器



④



⑥



技術は海を渡って

瓜二つ！

瓜二つ！



⑤



⑦

日本列島・須恵器

- ④ 《陶質土器 高杯形器台》 韓国・新羅 慶尚南道梁山夫婦塚出土 三国時代（6世紀初頭）
東京国立博物館蔵（Image:TNM Image Archives）
- ⑤ 《高杯形器台》 三重県指定有形文化財 三重県津市六大A遺跡出土 古墳時代（5世紀前半）
三重県埋蔵文化財センター蔵
- ⑥ 《陶質土器 把手付碗》 韓国・加耶 三国時代（4～5世紀） 個人蔵
- ⑦ 《把手付碗》 愛知県豊田市水入遺跡出土 古墳時代（5世紀前半） 豊田市

情報解禁！



（転載禁止）

【大王の甕】登場！
日本最大の前方後円墳
「仁徳天皇陵古墳」から出土
当時の有力者たちが求めた
最先端の器

- ⑧ 《甕》 陶邑窯
大阪府堺市仁徳天皇陵
（大仙古墳）出土
古墳時代（5世紀前半）
宮内庁書陵部蔵

Episode 2 造形のうつりかわり

須恵器の生産技術は5世紀を通して定着し、しだいに日本列島各地へ拡大していきました。須恵器の造形は、ルーツである朝鮮半島の陶質土器の形を取捨選択しつつ、日本列島の文化や美意識に合わせて変化していきました。

7世紀は古墳時代末期、あるいは飛鳥時代に区分されますが、須恵器の形の大転換期でした。伝来以来の須恵器の形は徐々に姿を消し、奈良・平安時代に連なる新たな形が登場することで、器形の世代交代が行われました。7世紀は隋・唐の出現により東アジア社会は変革期を迎え、日本も中国・朝鮮半島に学びつつ新たな国づくりを進めていました。須恵器の形の刷新も、当時の社会・文化の変化と連動しています。また、仏教文化の伝来・定着に伴い仏教で用いられた金属器等の形が須恵器にも取り入れられ、古墳時代とは異なる奈良・平安時代の須恵器の世界が花開きました。

ここでは、5～9世紀（古墳～平安時代）の須恵器について、典型的な作例とその変遷を九州、近畿、東海、関東で比較紹介し、各時期の象徴的な造形も紹介します。



⑨《台付椀》 猿投窯
三重県四日市市東坂部町出土
古墳時代末期（7世紀前葉～中葉） 個人蔵

当時最先端の金属器を意識した器。
須恵器の作り手たちの確かな技による洗練された造形。
展覧会担当学芸員が一目惚れした本邦初出品作品。



⑩《有蓋獣足壺》 東京都指定文化財
湖西窯 東京都昭島市玉川町火葬墓出土
昭島市教育委員会蔵

金属器・中国のやきものを意識した造形。
足がチャームポイント。

5 古
世 墳
紀



時代とともにうつりかわる 主要なカタチ（東海地方）

5世紀のカタチを継承し
つつ、足が伸びたり、
頸が伸びたり。

6 古
世 墳
紀



7 飛
世 鳥
紀

古墳時代に流行したカタチが
残りつつ、奈良・平安時代の
カタチが新たに登場。



※展覧会では九州・近畿・関東地方
でのカタチのうつりかわりも紹介
します。

8 奈
世 良
紀

古墳時代のカタチが消滅。
飛鳥時代に生まれたカタチ
が進展。



9 平
世 安
紀

奈良時代のカタチを
ベースに進展。



10世紀には、東海地方で須恵器が消滅。
釉薬をかけたやきものが主流に。
東海地方以外では、10世紀以降も須恵器
は作られ、使い続けられる。

⑪上記作品の所蔵は以下の通り。愛知県陶磁美術館、一宮市博物館、岡崎市美術博物館、岡崎市立男川小学校、瀬戸市、多治見市教育委員会、豊田市、名古屋市教育委員会、山口郷土資料館、個人蔵。
(※個別作品の詳細情報については、愛知県陶磁美術館担当までお問合せください。)

Episode 3 ハレのうつわ～古墳時代の祭り～

須恵器の造形は多岐にわたりますが、日用の食器や貯蔵器だけではなく、儀礼や祭りに特化した道具も存在します。特に古墳時代（5～7世紀）には、装飾須恵器・特殊須恵器と称される祭りに特化した作例が多く存在し、須恵器の歴史の中で最も多様な造形を展開しました。

装飾須恵器は、同じ器をいくつも繋げたもの、壺等の肩や蓋の上に小壺を乗せたもの、動物や人物の小像を乗せたもの等、非常に手が込んでいます。装飾須恵器は古墳に副葬されたものが大多数で、死者を^{とむら}弔い、集団の結束を再確認する場で使用された特別な器でした。特殊須恵器は異形の器で、用途不明の不可思議な造形もありますが、古墳の副葬品が多く、やはり特別な場での器でした。装飾須恵器や特殊須恵器にもルーツを東アジアに求められるものがあり、古墳時代の国際性の一端もうかがえます。

ここでは須恵器の装飾・造形の極みと言える古墳時代のハレの器、装飾須恵器・特殊須恵器の世界を紹介します。

とにかくたくさん、壺を付けたい！
やりすぎ！と突っ込みたくなる「古墳人の執念」を感じる逸品。

（右中・右下：右下は上からの写真）

⑬ 《子持台付壺》 岡山県瀬戸内市札崎古墳群出土
古墳時代（6世紀後半～7世紀） 岡山県立博物館蔵



⑫ 《台付七連杯》

和歌山県岩出市船戸箱山古墳5号石室内出土
古墳時代（6世紀後葉）

和歌山県立紀伊風土記の丘蔵

食べ物を色々盛りつけられる派手な器。
故人を偲ぶ、古墳での飲食儀礼で使用か。





神聖な鳥
だけど、
どこか愛らしい

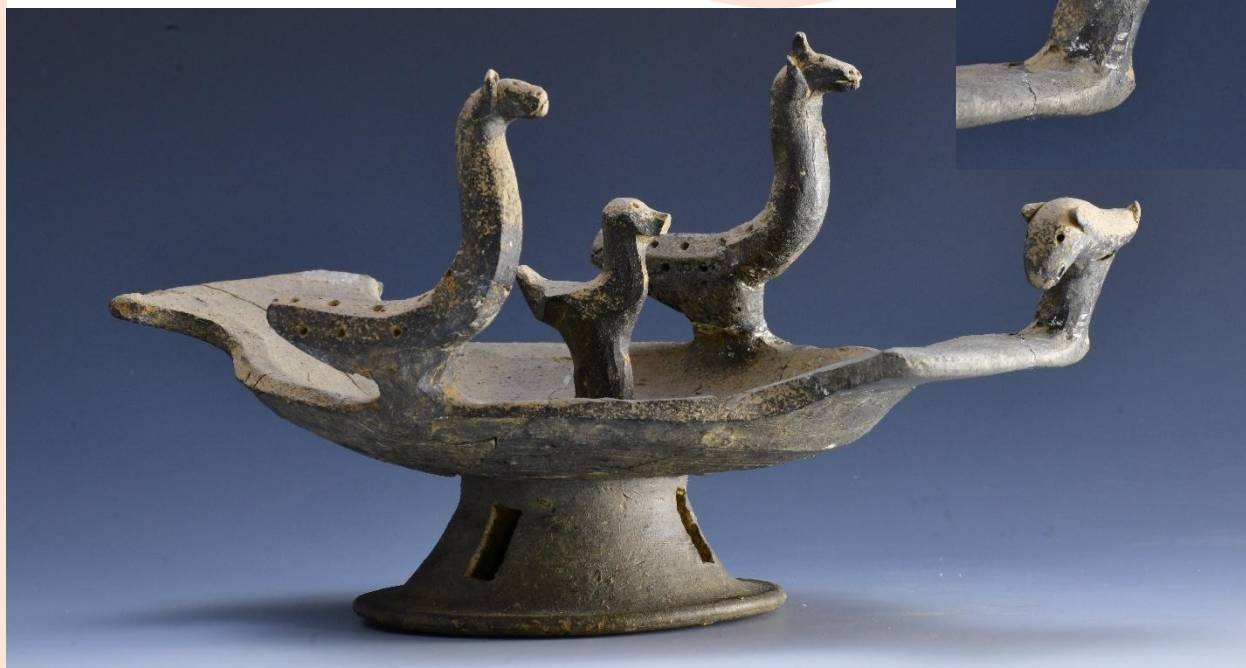


見
に
来
て
ね

⑭《鳥付裝飾須恵器》 広島県千代田町石塚2号墳出土 古墳時代末期（7世紀） 広島県立歴史民俗資料館蔵

ひときわ目を引く鳥の装飾。
器の各部に孔があり、器としての機能を成さない作例。
古墳の葬送儀礼に用いる器物。

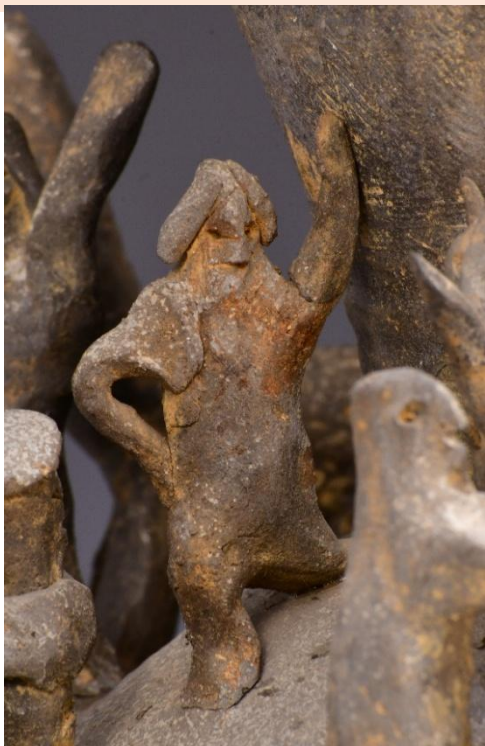
私は古墳犬。
1400年の時を超え
てやって来ました。
会場でお会いしま
しょう。



⑮《装飾付耳杯》 和歌山県和歌山市井辺八幡山古墳出土 古墳時代（6世紀）
和歌山市蔵（同志社大学歴史資料館保管）

背筋を伸ばし、同じ方向を向く凛々しい鹿と鳥。どちらも装飾須恵器で多用された動物のモチーフ。
犬だけは違う方向を向いているのが意味深。

堂々と仲間の報告を聞く男性？



イノシシ親子



動物たちのいる側へ背中を押される人？、背中を押す人？



左からイノシシ・馬・鹿と動物たちが続く。
馬は乗馬用の道具が付けられ、乗馬の風習を伝える。



バンザイをするリーダー格の男性と何かを捧げる女性。



⑩《装飾付台付壺》

大阪府茨木市南塚古墳出土 古墳時代（6世紀）
京都大学考古学研究室蔵（大阪府立近つ飛鳥博物館保管）

一つの器の上で繰り広げられるのは、古墳時代の風景か、それとも当時の物語か。
生き生きとした古墳時代の人々と動物たちは、
今にも動き出しそうだ。



⑪《二重甕》

三重県明和町神前山1号墳出土
古墳時代（5世紀後葉） 三重県明和町蔵

多数の窓を開ける手の込みよう。
なんと中には本体の壺が隠れている。



⑫《台付環状瓶》

東広島市指定文化財
伝・広島県東広島市丁田南古墳群出土
古墳時代末期（7世紀後半）広島大学考古学研究室蔵

異形の器でありながら、完成されたフォルム。
ドーナツ形の胴に、しっかり水が入ります。



飛鳥時代以降、平安時代まで、
馬に関わる祭祀や水辺の祭祀に
しばしば用いられた。
左がオス、右がメス。
愛らしい表情だが、単なる玩具
ではなく、祭祀に使われる大事
な道具だった。

⑬《土馬》

鳥取県米子市隠れが谷遺跡出土
古墳時代末期（7世紀）
米子市埋蔵文化財センター蔵

イベントも多彩！
あの手この手で
須恵器を楽しみつくす！

展覧会関連イベント

(1) 喫茶×リレートーク

(2) ワークショップ

「かけらでつづる須恵器のものがたり
—見る、さわる、並べる—」

(3) 長久手歴史ウォーキング

(4) 特別企画「須恵器を愛でる」

※イベントの詳細は公式WEBページ参照

ホンモノに触る・愛でる・
トーク・喫茶・歩く！



ホンモノの遺跡の
窯も見ろ！

※本リーフレットに掲載した作品の高精細画像につきましては、愛知県陶磁美術館担当まで
お問い合わせください。（掲載画像の無断転載はご遠慮ください。）